

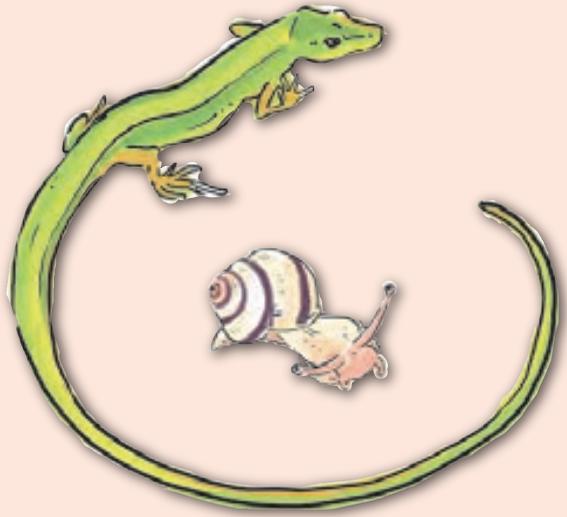
新 宮古島市 neo 歴史文化ロード

綾道

あやんつ

自然・動物編

しぜん・どうぶつへん



綾道

あやんつ



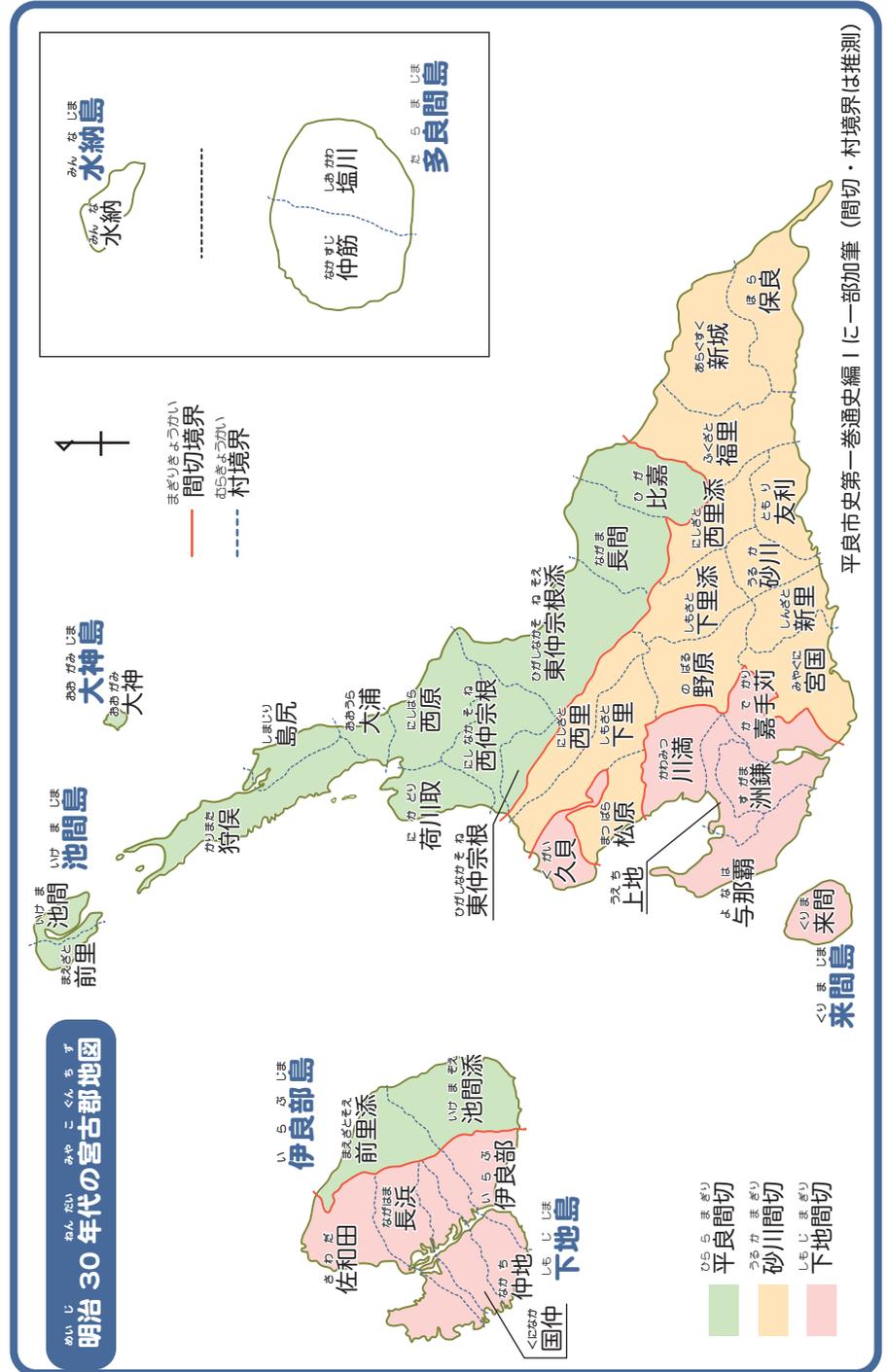
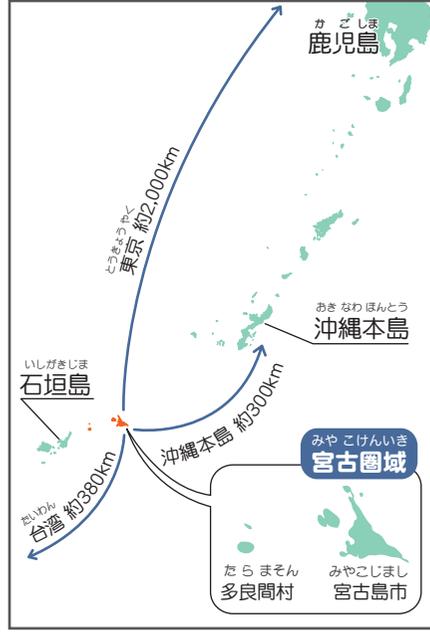
「趣のある道」のことを、宮古のことばで「あやんつ」といいます

みやこしまし いちめんせき
宮古島の位置と面積

宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島)で構成されています。

総面積は204平方キロメートル、人口約5万6,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。



平良市史第一巻通史編1に一部加筆(間切・村境界は推測)



宮古島市neo歴史文化ロード 綾道 自然・動物編

宮古島の位置と面積	02
明治30年代の宮古郡地図	03
環境ごとの観察場所	06
宮古諸島の動物と自然	08
激動を生きた動物たち ～化石からわかる動物相～	10
いまはない島があった!? “OMSP”説	11
動物の分類	12
ほ乳類	13
宮古馬	13
宮古馬の歴史	14
ジュゴン	16
ネズミ・モグラ類	18
コウモリ類	19
鳥類	20
旅鳥	21
サシバと宮古の人びと	22
留鳥	24
夏鳥	26
かんさつのコツ・気をつけること	26
アジサシ類	27
サギ類	28
冬鳥	29
人と関わりの深い鳥たち	30



爬虫類	32
トカゲ類	32
保護対象なのに外来種?	35
へび類	36
両生類	38
生き物に関わる法律や条例	39
陸棲・陸水棲 十脚甲殻類	40
ヤシガニ	40
ヤシガニの保全	41
オカヤドカリ類	42
オカガニ類	44
ミヤコサワガニ	45
陸産貝類	46
意外と知らない陸産貝類	48
野外観察のときに気をつけること	49
宮古のゆがたい ネズミとヤドカリのおはなし	50
宮古のゆがたい カエルとイノシシの知恵比べ	51
外来種 入れない、捨てない、拡げない	52
写真提供	53
文化財の体系図・一例	54



※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう。

環境ごとの観察場所



ジュゴン...p16



ジュゴンが見られるかも...!



サシバの飛来数 No.1!!

サシバ...p21

伊良部島

池間湿原

オカガニ...p44

旧暦7月の満月の満潮前後が産卵時期

池間島

大神島

県内最大の湿原

ムラサキサギ...p29

島尻マングローブ

マングローブにすむ生き物を観察できる
オカヤドカリ...p42

海岸近くでよくひなたぼっこをしている

キシノウエトカゲ...p33

水辺を好む鳥が見られる

クロツラヘラサギ...p29



来間島

ヤシガニ...p40



ほ乳類 p13



鳥類 p20



爬虫類・両生類 p32



十脚甲殻類 p40



陸産貝類 p46



大野山林、野原岳、牧山、上比屋山は生き物の宝庫

生き物に関わる法律や条例...p39

大野山林、野原岳、牧山、上比屋山は生き物の宝庫

大野山林、野原岳、牧山、上比屋山は生き物の宝庫

宮古馬に会いに行こう!

宮古馬...p13



夏はアジサシが見られる

アジサシ...p27



カーと呼ばれる湧水にはエビヤカニがすんでいる

海の崖ちかくをよく飛んでいる

ミサゴ...p29



本文の見方

宮古の方言名

動物名

動物の特徴と宮古での利用例など(地域によって異なる)

※方言名は一般的な呼び方を記載。地域によって異なる。読みを表記は宮古島市史『みやこの自然と人』に準ずる

生息する場所

- 人里
- 畑・草原
- 森林・海岸林
- 湿地・干潟
- 海
- 砂浜

宮古固有種

外来種

みやこしょとう どうぶつ しぜん 宮古諸島の動物と自然

九州南端から台湾の間には200を超える島々が点在し、南西諸島と呼ばれます。その中で大陸に沿って弓なりに並んでいる列島を、琉球列島(琉球弧)と呼びます。琉球列島は断層などを境にして北琉球・中琉球・南琉球に区分することができ、この区分は生物分布の境界線にもなっています。

例えば、オオコウモリやハブ、キノボリトカゲなどは渡瀬線が分布の北限となっていて、中琉球と南琉球でしか見られません。また、キンバトやムラサキサギなど

は蜂須賀線が分布の北限になっています。

宮古諸島は山地も河川もなく、平らで自然も変化がないように見えますが、詳しく調査してみると、島の環境に適した個性ある動物たちが生息しています。これらの動物の中には、宮古諸島にだけ生息している固有種や、国・県指定の天然記念物もいます。

また、大陸や日本列島の渡り鳥たちが南下するときの中継地でもあり、季節ごとにさまざまな種類の鳥を観察することができます。



宮古にもゾウがいた！？

現在の宮古諸島には大型の陸棲ほ乳類やハブ類はいませんが、かつて生息していたことが分かっています。

宮古諸島は、島尻層群と琉球層群と呼ばれる層が重なってできています。できた時代が違うこのふたつの層群からゾウの化石が見つかっています。また、琉球層群からシカやイノシシ、ヤマネコ、クイナやツル、大型のハブなどの化石も見つかっていて、これらは沖縄諸島やそれ以北に今も生息している固有種に近いことが分かっています。こういった化石は、宮古諸島が、大陸やほかの島々とつながっていた時期があったこと、何らかの理由で宮古諸島から姿を消した動物がいることを示しています。

海に沈んだ大陸があった！？

近年、「OMSPという大陸が沖縄島と宮古島の間に存在し、島と島をつなぐ橋のような役割をしたのではないか」という仮説が注目されています。今後、この仮説をもとにさらに研究が進めば、宮古諸島の動物についての謎が明らかになるかもしれません。

※OMSP：Okinawa-Miyako Submarine Plateauの略

今までのナゾ

海の中
地層を調べると
宮古は完全に
水没していた
時期がある。

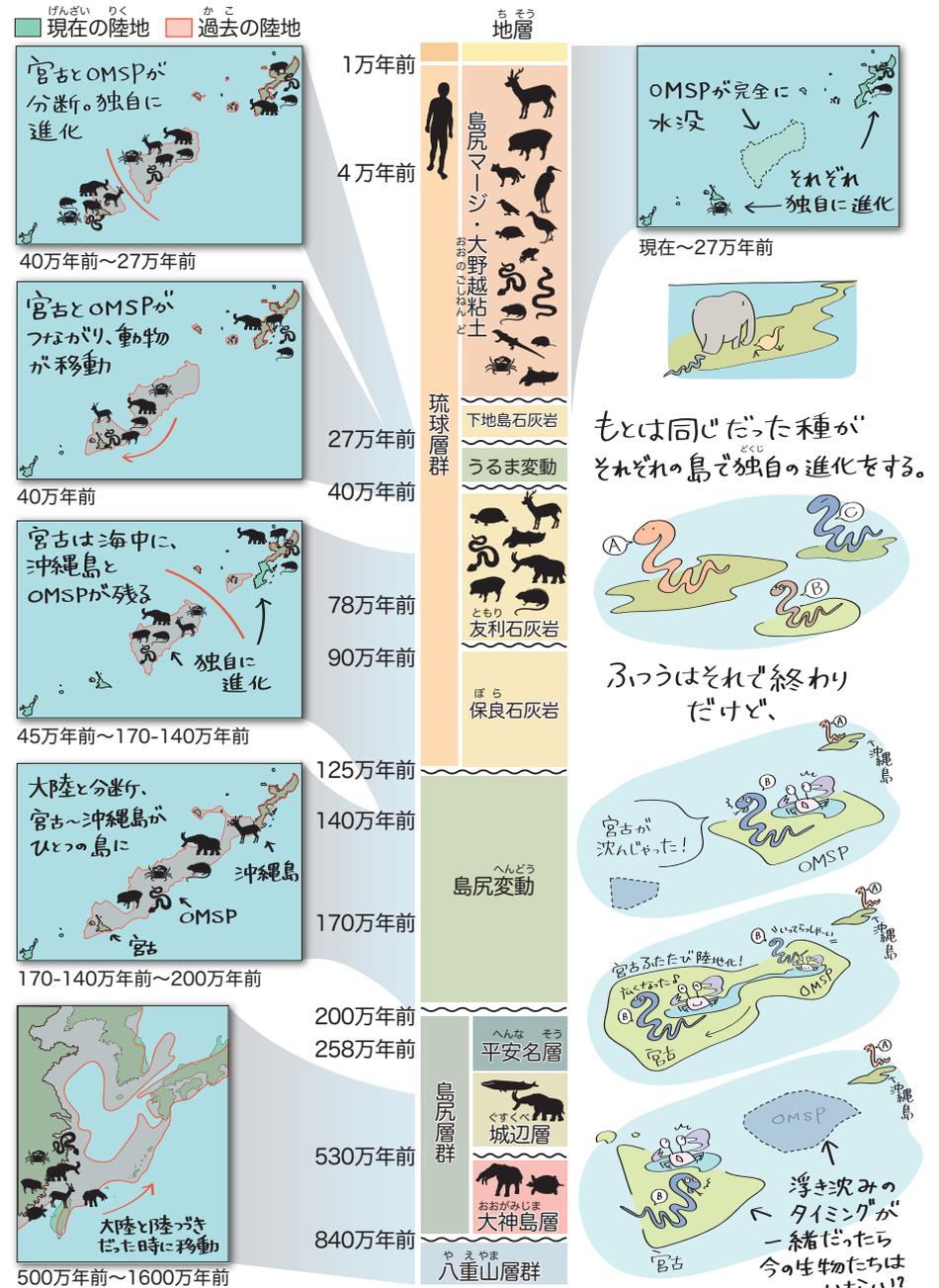
なのに。
海を渡れない鳥や
ハブの化石や、

淡水でしか
生きられない
ミヤマサワガニ、

沖縄島とは別で
進化したミヤマバア
がいる。

海中に沈んでいるのは
石炭かなのに
…なぜ？

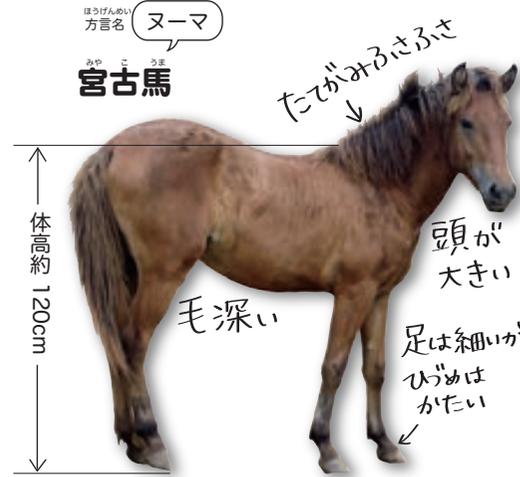
いまはない島があった！？ “OMSP” 説





ほ乳類

現在、宮古諸島に生息するほ乳類はネズミ、コウモリ、イタチの小型種のみで、これまで4目9種が確認されています。それ以外に、島の人々の生活に関わってきたほ乳類として、宮古馬やジュゴンがいます。



県指定天然記念物(1991)

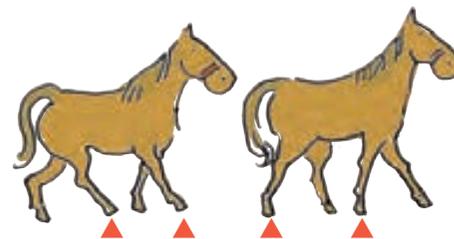
宮古馬は日本在来馬8種のうちの1種です。温厚な性格で病弱に強く、忍耐力に優れています。固く強いひづめを持ち、荷運びや畑仕事の担いで重宝されました。また、側対歩が得意で、ソマハラシー(琉球競馬)で優勝するほどの活躍でした。どの家も「ヌーマツ」という小屋で大切に飼っていたそうです。

「ソマハラシー」は馬け足ではなく、いかに美しく歩くかが競われた。



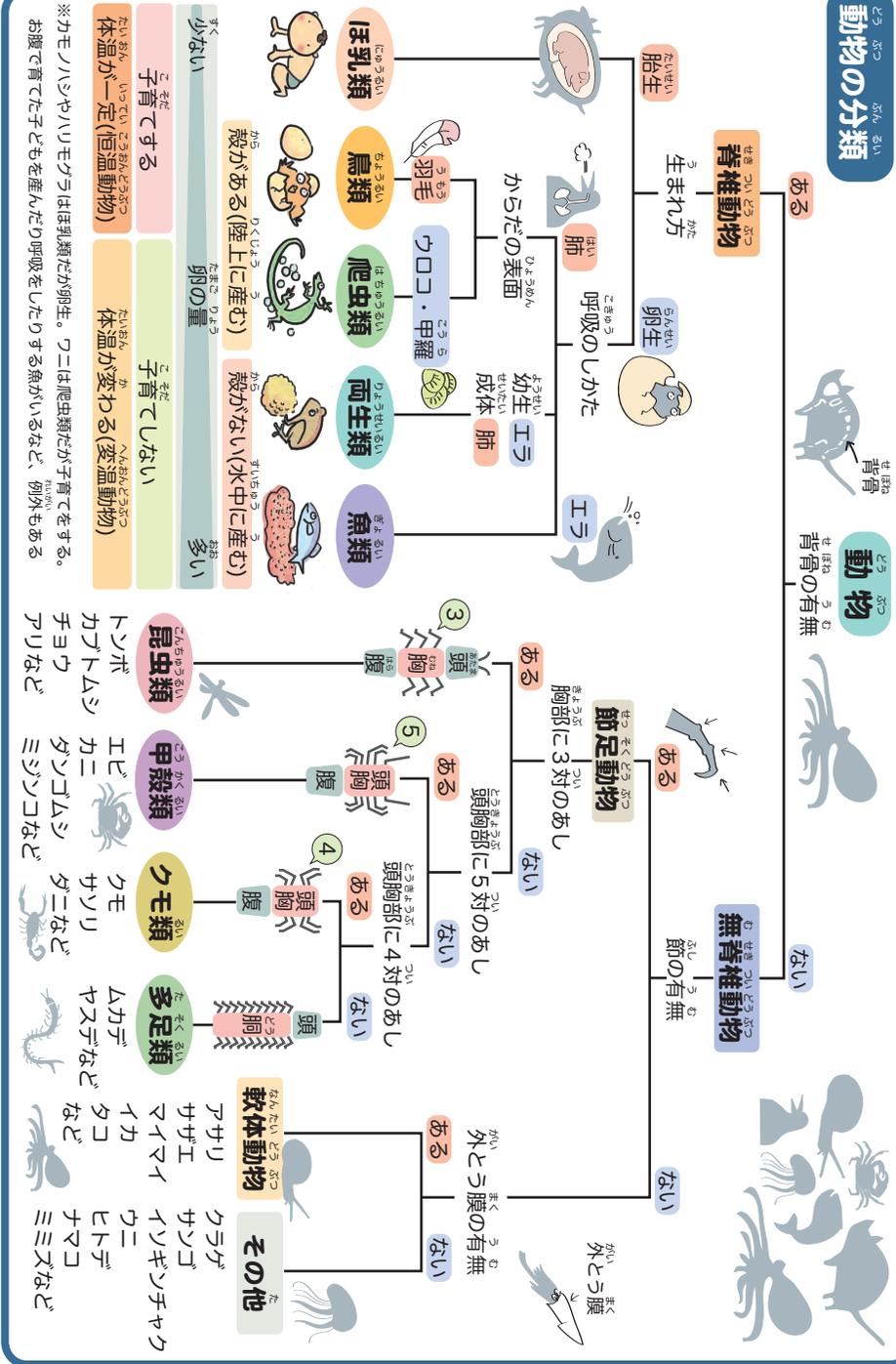
側対歩とは？

同じ体側の前足と後ろ足を同時に出す歩き方で、揺れが少ない。



当時の農民は乗馬を禁じられており、教していないのに側対歩で速く歩けたのは、石がゴロゴロする道を荷物が崩れないようバランスをとって歩かねばならなかったことで、自然と身につけた特技だったのではないかと考えられています。

動物の分類



ひらら はりみず いつたい いせき み ほね ねん
平良の漲水一帯の遺跡から見つかった馬の骨の年代測定より、14世紀以降と推定されています。

こうらう ば りゅうきゅうま みやこま
貢納馬としての琉球馬・宮古馬

ちゅうごく じょうのう すいけい どう
中国に上納した琉球馬は推計5,544頭といわれています。また、宮古馬は江戸幕府に御用馬として採用され、宮古の馬場は首里王府が手厚く管理していました。



江戸の献上馬の行列のようす
('宝永七年寅十一月十八日琉球中山王兩使者登城行列' 国立公文書館所蔵より切り抜き)

ば ひつきょ せいほう てき おうじょ がい
馬匹去勢法、適応除外になる

とうじ おお ぐん ば ひつよう せいふ
当時、大きい軍馬を必要としていた政府は、在来馬をすべて去勢するよう法律で決めました。しかし、去勢した馬は忍耐力が落ちて畑仕事に支障が出たり、競争馬としての価値が下がるということで島民の反発が大きくなりました。島民の意向を受けた自治体の後押しもあり、宮古は早々に除外区域となりました。

宮古馬の渡来 14世紀

中国に琉球馬 1374

として上納
薩摩の琉球侵攻 1609

江戸幕府に 1634

13頭上納

人頭税施行 1637

1681

馬場を設置 1697
(現在の馬場団地)

廃藩置県 1850

(琉球処分) 1879

人頭税廃止 1903

馬匹去勢法施行 1916

馬匹去勢法適用 1922

除外区域になる

宮内庁が皇太子 1935

の乗馬用に宮古

馬3頭を購入

日中戦争勃発 1937

第二次世界大戦勃発 1939

飼育数1万頭超 1940

家族の一員として大切に飼われていた

琉球王朝時代
江戸

明治

大正

昭和

昭和

平成

令和

1941 ● 太平洋戦争勃発

1945 ● 終戦

1949 ● 馬匹去勢法廃止

1977 ● 全島調査で14頭のみが宮古馬として保存価値が高いことが分かる

1978 ● 太平号寄贈
熱帯植物園で飼育開始(メス馬3頭 オス馬1頭)

1980 ● オスの仔馬誕生
宮古馬保存会発足

1983 ● 太平号を剥製に

1991 ● 県の天然記念物に指定

2024 ● 飼育数48頭に

ざっしゅ か きかい か げきげん
雑種化と機械化で激減

せんちゅう ぐん ば おおがたうま こうはい すす
戦中、軍馬にするために大型馬との交配が進み、また戦火の犠牲になったり食料にされ、宮古馬の数は次第に減っていきます。戦後、農具の大型化とともに雑種化が進み、さらに機械化によって役割が減ったことで激減してしまいました。

きぼう ひかり たいへいこう
希望の光「太平号」

し 市が宮古馬存続のために繁殖可能なオス馬を探していたところ、沖縄島にいた1頭の宮古馬が市に寄贈されました。「太平号」と名付けられ、無事繁殖に成功するも、老齢だったためわずか5年で生涯をとじました。宮古馬保存会発足に大きく貢献したこともあり、はく製化されることが決まると、関係者約2000人から寄付が集まりました。現在、太平号ははく製と骨格標本として博物館に保管・展示されています。



生前の太平号(1982.12)

宮古馬保存へ向けて

宮古馬は一時、7頭まで減少しました。1985年に粟国島で宮古馬と同じ系統の馬が数頭見つかり、市は日本馬事協会の協力のもと、オス2頭メス7頭を5年かけて宮古に里帰りさせました。その後1991年に増殖計画が本格的にスタートしましたが、遺伝子が近い馬同士の交配が原因で、仔馬が病弱だったり死産になる問題が出てきました。そのため、2022(令和4)年から、DNA分析を用いて遺伝子が遠い馬同士を交配させる計画を立て、現在飼育数100頭を目標にかかげて活動しています。

ザン、ヨナタマ、ジャン、ザカムヌ

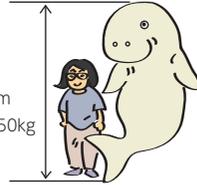
ジュゴン



国指定天然記念物(1972)
国際希少野生動物種(1993)
環境省RL(2020)絶滅危惧 I A類
沖縄県指定希少動物種(2021)
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧 I A類
写真提供:鳥羽水族館

沿岸の湾内やサンゴ礁周辺に生息し、砂地に生える海草類だけを食べます。成熟するのに6年~17年かかり、寿命は70年ほど。南西諸島が東側の分布の北限となっています。

体長 2.4~3m
体重 400~450kg



ジュゴンの生態

ふだんは時速3km程

逃げる時は時速2~30km!

エサを食べた跡が道のように残る



- 1回の呼吸で3~5分潜る
- リュウキュウスガモやウミヒルモなどの海草が大好き
- 藻場の水深が1~1.5mになるタイミングがご飯タイム
- 40mほどの長い腸で5日~10日ぐらいかけて消化する
- 怖がりなのですぐ逃げる、騒音がきらい

ジュゴンとマナティーの違い

どちらもカイギュウ目に属するゾウに近い生物で草食。

ジュゴン 海にしかいない

川や海にいる

マナティー

浅い水域で浮草などを食べる

前から見るとけこう違う



海底に生えた海草を食べやすい口の形

七かり込みの入り込んだ三月型。速く泳げる



浮き草を食べやすい口の形



ひじとツメがある。エサをつかむ、地面をはうのにベリ

うちわのような丸い形。こまわりがきく

歴史から見るジュゴン

ジュゴンは、遺跡からも骨が出土し、明治から大正にかけて捕獲していた記録がありますが、1965年に魚網にかかった個体を最後に、宮古諸島近海での正式な生息記録はありませんでした。ところが、2019年に伊良部島近海で大型ほ乳類と思われる生物が目撃さ

れ、食み痕やフンが見つかりました。そしてフンからジュゴンのDNAが検出されたことで、南西諸島で絶滅したとされていたジュゴンが生息している可能性が高まりました。それ以降、食み痕や目撃情報はありますが、まだ姿を撮影することはできていません。

1960~70年代の証言や残る方言

佐和田の浜 佐和田沖 海草が剥げていたら泳いでいたら危険だから泳ぐなど言われていた

佐和田沖 泳いでいたらジュゴンが近づいてきた

ザンツヌパダ(ジュゴンのくる端)

フウツジャン

伊良部島

津波で全滅したといわれる木泊村にジュゴンの伝説がある

渡口の浜 ジュゴンを7頭獲った

最近まで人々の生活とジュゴンが密接に関わっていた

狩俣地区 裏の海の窪みにジュゴンがいた

ニシの浜で漁師が3頭獲ったのを食べた

海のウタ イムヌワー

池間島 伊良部島 大神島

与那覇湾沖 1970年頃まで回遊していた

吉野海岸沖 早朝や夕方に海草を食べにきていた

藻場が開発や森林減少

農薬などで湧き減中...

ザンフラサ(ジュゴンの草)、ザンセギ(ジュゴンのヒゲ)という地域もある

藻場は、砂の流出を防ぐ、小さな生物や稚魚のすみか、酸素を作り出すなどいろいろな働きがある。



ネズミ・モグラ類

宮古諸島で見られるネズミはすべて外来種です。
人間の近くで生活をしています。



外 ハツカネズミ

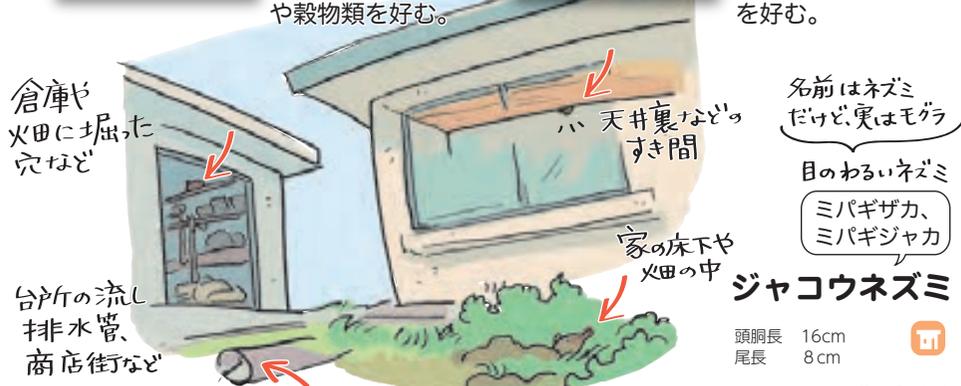
頭胴長 9cm
尾長 8cm

年中繁殖し、1回で5~6匹産む。種子や穀物類を好む。

外 クマネズミ

頭胴長 23cm
尾長 26cm

壁登りや綱渡りが得意。種子や芋類を好む。



外 ドブネズミ

頭胴長 28cm
尾長 22cm

夜行性で泳ぎが得意。肉や魚を好む。

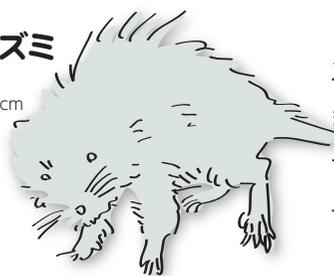
外 モグラの仲間。昆虫類やミミズ、残飯などを好む。甲高い鳴き声と独特の臭いで嫌われている。

目が小さい
鼻が長い

昔は大ネズミがいた！？

ミヤコムカシネズミ

頭胴長 推定60cm



約2万6000年前~2万8000年前のネズミの化石がピンザアブで見つかります。クマネズミの仲間としては最大級で、同じ時代に生きていた大型ハブのエサだったと考えられています。

コウモリ類

ほ乳類の中で2番目に種類数が多く、日本に37種います。
宮古諸島では3種が確認されています。



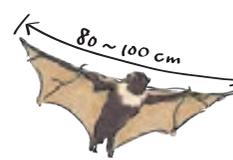
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧

ヤエヤマオオコウモリ

別名フルーツバット

頭胴長 20cm
前腕長 12~13cm

大型のコウモリで、クビワオオコウモリ5亜種のうちの1種。日中は高木にぶら下がって休み、夜に主に果実を食べ、葉や花の蜜も食べる。花の受粉や種の散布を助け、森林の維持に役立っている。



エコーロケーションはせず、視覚に頼るので、眼が大きく耳が小さい。



宮古には小型のコウモリがない？



ミヤココキクガシラコウモリ

※写真はオキナワコキクガシラコウモリ
撮影：沖縄島恩納村

環境省(2012)絶滅

ねぐらの洞窟とエサ場の森林があるかんきょうに多く生息していた。1971年に10個体が確認されたのを最後に記録がない。

以前はふつうにいたのに最近見ない...



アブラコウモリ

頭胴長 6cm
前腕長 4cm

撮影：沖縄島豊見城市

沖縄県RDB(2017)絶滅危惧II類

日中は屋根裏や建物のすき間で休み、夜に畑や公園などで飛び回りながらエサをとる。1日に約500匹の蚊などの小型昆虫を食べる。



宮古諸島は沖縄島と台湾のほぼ中央に位置し、渡り鳥にとってちょうどよい中継地点になっています。そのため、観察できる鳥のほとんどは渡り鳥です。2024年12月時点で、留鳥27種、夏鳥8種、冬鳥88種、旅鳥72種、迷鳥169種の21目65科360種が確認されています。この数は、国内で確認されている鳥類の約55.9%にもなり、国内有数の野鳥保護区やバードウォッチャーの聖地とされる場所よりも多いと言われています。

- 夏 夏鳥：夏に渡ってくる鳥
- 冬 冬鳥：冬に渡ってくる鳥
- 旅 旅鳥：季節ごとに旅をする鳥
- 留 留鳥：一年中同じ場所で過ごす鳥
- 迷 迷鳥：台風や偏西風などで飛ばされて迷い込む鳥
- 北 北限：分布域の北の限界



旅鳥



環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧Ⅱ類
宮古島市保全種(2005)

翼開長	全長	オス47cm
	メス51cm	
	翼開長	105~115cm

保護活動の歩み

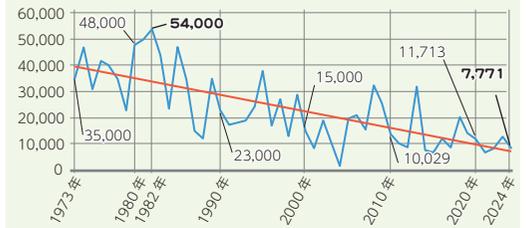
- 1964 狩猟法改正。罾でサシバを捕るには免許が必要になる
- 1972 本土復帰でサシバが保護対象に
- 1977 10月を「サシバ保護月間」と定め保護活動をするが、密猟は減らず
- 1988~ マスコミヤや警察の協力で保護をPR。環境教育の一環として保護活動を展開
- 1993 「第1回サシバは友だちフォーラム」「サシバは友だちサミット」を開催。保護への意識が高まる
- 2000~ 密猟がほぼなくなる
- 2019 「第1回国際サシバサミット」開催地：栃木県市貝市
- 2021 「第2回国際サシバサミット」開催地：宮古島市
- 2023 「第3回国際サシバサミット」開催地：台湾
- 2024 「第4回国際サシバサミット」開催地：フィリピン

ほうげんめい 方言名 タカ

サシバ旅

春に日本列島へ渡り、里山で繁殖する渡り鳥です。9月中旬~10月上旬の寒露の頃、越冬のため南の島々へ向かう途中、休憩で宮古諸島へ飛来します。昔は留まる木が足りなくなるほどの大群が訪れ、空をおおいつくしたと言います。現在は宮古野鳥の会を中心に個体数カウントや観察会、講演会、保護林設置などの活動が行われています。

サシバの飛来数(1973~2024年)



調査：宮古野鳥の会・沖縄自然保護課 引用：沖縄県自然保護課(2024.10.31)

ハトより小型のタカ

タカツツカイ
タカツツカイ



アカハラダカ旅

全長30cm

秋の白露の時期にサシバより先に渡ってくる

ため、宮古の人々はアカハラダカを「サシバの使い」と呼んでいた。

サシバと宮古の人びと

むかし、食料不足や重い税に苦しんでいた島民にとって、サシバは年に一度のごちそうであり、貴重な財源でした。そのため、渡りのシーズンはサシバ専用のワナを作り、仕掛ける場所も入札で決めるなどしていました。サシバが思うように獲れない日は、つかまえたサシバの美しさや数を自慢したり、おいしい調理法について話し合ったりしました。

ワナは多い時で1,500~2,000個も作られ、ひとつのワナで平均60羽前後が捕獲されたと言われていました。運動会の練習で太鼓を鳴らしたら、サシバが警戒するから鳴らさな！と住民が抗議した(伊良部地域)こともあるほどでした。サシバとの関わりは生活の一部であり、宮古独自の文化として根づいていました。

来間島の事例

昼用のワナ **スギヤ、ツギヤ**



夜用のワナ **ソドウイギー**



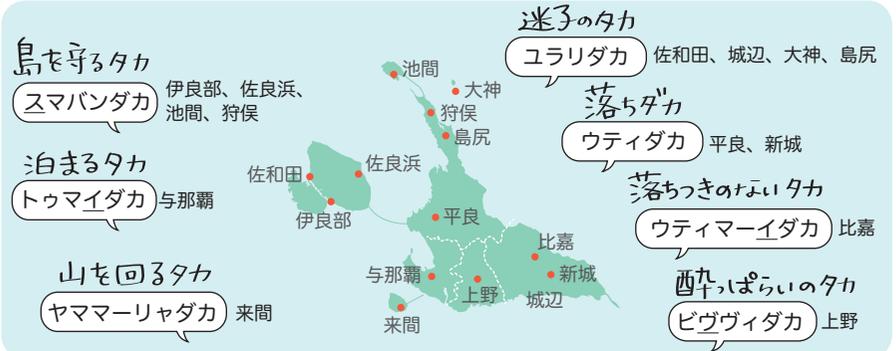
目の色で値段が違った!?

目の色と縞模様で、若鳥と成鳥の区別がつけます。アカミーは囀として使われ、キムミーは美味しいとされ、高く売れました。



越冬サシバ

宮古諸島は渡りの中継地点ですが、中には南へ移動せずに宮古で冬を越すサシバもあり、地域によって呼び名が違っていました。



わらべ歌 (平良地域)

サシバが飛来して上空を旋回するのを見ると、子どもたちはいっせいにタカの歌を歌いました。

タカドーイ デンゴ デンゴ タカだよ
 ウヴァガ ヤーヤ ンザガ おまえの いえは どこだ
 タラマヌ パイカタヌ たらま 多良間の 南のほうの
 ドッフキギーヌ スタンドウ デイゴの木の したに
 ヤーヤ ツツフィ ビジュウイ いえをつかって すわっているよ



参考: 『みやこの自然と人』宮古島市史第三巻 自然編第二部(2023) 国仲富美男作図



ウシ=ウス
ウスバトウ
ヨナグニ
カラスバト

全長40cm

国指定天然記念物(1971)
国内希少野生動物種(1993)
環境省RL(2020)絶滅危惧 I B類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧 I A類
宮古島市保全種(2005)

くび むね せ
首から胸、背
なか わらさき
にかけて紫
みどり こうたく
や緑色の光沢

のある羽をもつ大型のハト。個体数が少なく警戒心が強いいためなかなか見られない。声を頼りにすると探しやすい。



△バトウ

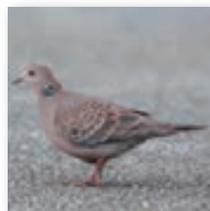
キンバト

全長25cm

国指定天然記念物(1972)
国内希少野生動物種(1993)
環境省RL(2020)絶滅危惧 I B類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧 I B類
宮古島市保全種(2005)

しょとう はんしよく
宮古諸島を繁殖の
ほくげん こがた
北限とする小型の
うつく
美しいハト。

くちばしは赤、頭は白、背中は茶、羽は光沢のある緑色。毎年初夏に大野山林や雑木林で子育てをする。



ンバトウ

キジバト

全長33cm

からだ
体の色がキジのメ
スに似ていること

から名がついた。よく聞こえる鳴き声は、オスの求愛か、なわばりを主張する声。



アオバトウ

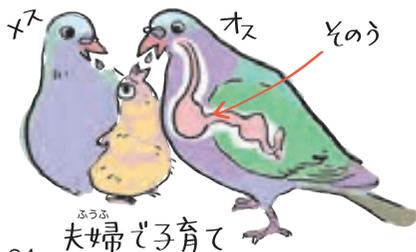
チュウダイ
ズアカ
アオバト

全長35cm

からだ
体は緑、くちばし
は青、眼は赤。

鳴き声が縦笛のような音に聞こえるためシャクハチバトとも呼ばれる。台湾に生息する種は実際に頭が赤い。

ピジョンミルク



ハトは「そのう」と呼ばれる器官でタンパク質や脂肪を多くふくむ物質を生成し、ヒナに与えます。オスもメスも作ることができるため、一年中繁殖することができます。



ミバギビジュマ

ヒヨドリ

全長28cm



夏は昆虫、冬は
花の蜜や果実が

主食。カタツムリや葉菜なども食べる。おいしいん坊。世界的には限られた地域にしか生息せず、実は珍しい鳥。



イソヒヨドリ

全長23.5cm

磯の岩場がすみかだったが、建物を崖に見立てて営巣するようになった。春～夏にかけて子育て中のペアをあちこちで見ることができる



シロハラクイナ

全長33cm

中型のクイナ。

クイナは飛べないと勘違いされる

が、実は飛べる。ただ、ヤンバルクイナだけは飛べない。

とび出し
注意!!



ウツジャ、ウツア

ミフズラ

全長14cm



実はウズラではなく、ウズラに似た形の別の種。

一妻多夫制で、メスはオスの作った巣に卵を産むと次のオスを探して去り、残ったオスが卵を温めて子育てをする。

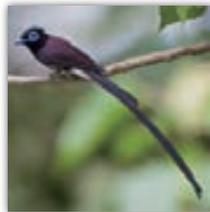
火事だー!



宮古の民話で、火事でいちもくさんに逃げるのはオスだが、実は逆だった。

ウズラのゆがたい
『ゆがたい 宮古島の民話 第四集』宮古民話の会(1984)

ナガズーマチャ



サンコウ
チョウ

全長 オス 45cm
メス 17.5cm
宮古島市保全種(2005)

オスの鮮やかなアイリングと長い尾が特徴。毎年4月中旬頃に飛来し、木の枝に巣を作る。



クカイ



アカショウビン

全長27cm
宮古島市保全種(2005)

カワセミの仲間。
毎年5～6月に飛

来し木の洞などに巣をつくる。赤色の大きなクチバシと独特な鳴き声の特徴。体の色が火を連想させることから、昔の人はアカショウビンが家に入ってくると不吉だと嫌がった。

かんさつのコツ・気をつけること

名前 は分 け なく ても いい。

どこにいる?
どんな
ようす?



大きさは?
鳴き声は?
色は?
親子かな?
つがいかな?
何を食べているのかな?
1匹かな?
群れかな?

子育て中は
近づかない!!!

ストレスでヒナをおいて巣を捨ててしまうことも。ベニアジサシのように、二度とそこで巣を作らないものもいる。

遠くから
しすかに
そーっと

小さな声や羽音を楽しもう。

虫が好きな鳥
多くの虫が住める環境

種ごとに住む環境を変えて共存することで、何千種もの鳥がくらしていている。なのでどんな鳥がくるかでその環境がわかる。

アジサシ類

アジサシ類は世界で40種が知られ、宮古諸島ではこれまで14種のアジサシ類が夏鳥や旅鳥、迷鳥として確認されています。日豪(オーストラリア)渡り鳥保護協定によって保護されているベニアジサシや、絶滅が危惧されているコアジサシ、エリグロアジサシもいます。

エリグロアジサシ



全長30～32cm

環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
水産庁RDB希少種
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧
宮古島市保全種(2005)

海岸の岩礁や沖合の岩礁に巣を作る。

クロアジサシ



全長38～45cm

宮古島市保全種(2005)
宮古諸島が国内繁殖の北限。岩礁や岩棚に小石や海藻で皿状の巣を作る。

ベニアジサシ



全長33～43cm

環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧
宮古島市保全種(2005)

岩礁に小石や枯葉で巣を作る。環境の変化に敏感。

マミジロアジサシ



全長35～38cm

宮古島市保全種(2005)
岩礁の割れ目や岩棚の奥まったところに直接産卵する。

コアジサシ

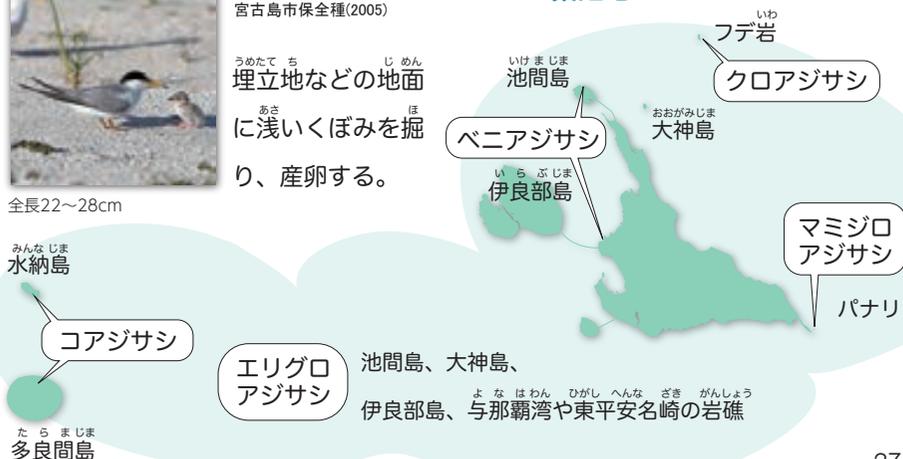


全長22～28cm

環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
宮古島市保全種(2005)

埋立地などの地面に浅いくぼみを掘り、産卵する。

主な繁殖地



コアジサシ

エリグロアジサシ

池間島、大神島、伊良部島、与那覇湾や東平安名崎の岩礁

クロアジサシ

マミジロアジサシ

パナリ